

デキスパートのデータフォルダー・一時管理フォルダーとして使用可能な記憶媒体と接続方法

【ハードディスクの種類別】

一般に販売されているハードディスクは、接続方法や使用用途などから、大きく分けて4つのタイプに分類されます。ご購入予定もしくは、ご使用中のハードディスクのタイプを確認いただき、デキスパートのデータフォルダーや一時管理フォルダーとして使用可能かどうかをご確認ください。

外付型	ポータブル型	内蔵型	LAN接続型 (NAS)
○	△	◎	✕
<p>■接続ケーブル</p>  <p>USB ケーブル</p>	<p>(バスパワータイプ)</p>  <p>USB ケーブル</p>	 <p>PC直付 / 専用ケーブル</p>	 <p>LAN ケーブル</p>
<p>■接続方法</p> <p>パソコンのUSBポートに挿して使用</p>	<p>パソコンのUSBポートに挿して使用</p>	<p>パソコンに内蔵して使用</p>	<p>ハブ(ネットワーク機器)のLANポートに挿して使用</p>
<p>■主な使用用途(例)</p> <p>データ保管やバックアップ用の増設ドライブとして使用</p>	<p>職場と自宅とのデータの持ち運び用として使用</p>	<p>パソコンの内蔵ドライブとして使用</p>	<p>ネットワーク(LAN)を介して、複数のPC間でのファイルやデータ共有用として使用</p>
<p>■注意事項等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・簡単に取り外しができるため、ソフト使用中に誤ってケーブルを外したりして、データ破損などが生じない様、設置場所等に注意してご使用ください。 ・他の外付けメディアとの接続順序により、ドライブ名(D:等)が変わる場合がありますので、ご注意ください。 	<ul style="list-style-type: none"> ・内蔵型や外付型ハードディスクよりもソフトの動作が遅くなる可能性があります。 ・外付型ハードディスク同様に、ソフト使用中に誤ってケーブルを外したり、不用意に接続順序を変えたりしない様にご注意ください。 	<ul style="list-style-type: none"> ・SSD(フラッシュメモリドライブ)も使用可能です。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ハードディスク内部にOSが搭載されています。 ・一般的に販売されているLAN接続型ハードディスク(NAS)は、搭載OS等の関係上、データフォルダーとしての使用は保証できません。 ・次ページの Windows Server OS を搭載した NAS の多くの機種はご使用いただけます。

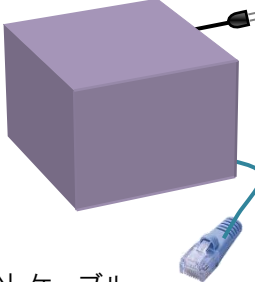
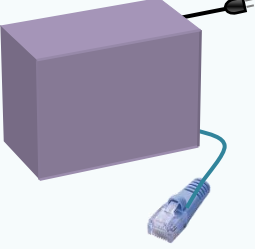
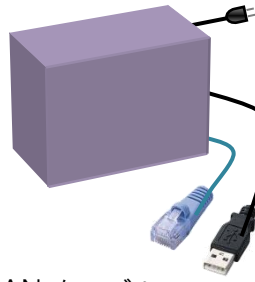
- ◎ … 使用可能です。(推奨) ○ … 使用可能です。
 △ … 使用可能ですが、推奨できません。 ✕ … 使用できません。

↓
 次ページを
 ご確認ください

【LAN接続型ハードディスク(NAS)の種類別】

LAN接続型ハードディスク(NAS)には、大きく分けて3つのタイプがあります。

タイプや接続方法により、データフォルダーや一時管理フォルダーとしての使用可否が分かりますので、ご注意ください。

Windows Server OS 搭載タイプ	Linux 等の OS 搭載タイプ (LAN接続のみ)	Linux 等の OS 搭載タイプ (LAN・USB接続 両対応)					
○ 下記 OS 搭載モデル	×	■LAN 接続の場合 ×	■USB 接続の場合 △ (※1)				
<p>■接続ケーブル</p>  <p>LAN ケーブル</p>	 <p>LAN ケーブル</p>	 <p>LAN ケーブル USB ケーブル</p> <p>接続 切り替え可</p>					
<p>■接続方法</p> <p>ハブ(ネットワーク機器)の LANポートに挿して使用</p>	<p>ハブ(ネットワーク機器)の LANポートに挿して使用</p>	<p>ハブ(ネットワーク機器)の LANポートに挿して使用</p> <p>あるいは パソコンのUSBポートに挿して使用</p>					
<p>■注意事項等</p> <p>・下記の OS を搭載したモデルは、使用可能です。</p> <table border="1" data-bbox="135 1310 534 1691"> <thead> <tr> <th>搭載 OS</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Windows Server IoT 2019 for Storage</td> </tr> <tr> <td>Windows Storage Server 2016</td> </tr> <tr> <td>Windows Storage Server 2012, 2012 R2</td> </tr> </tbody> </table>	搭載 OS	Windows Server IoT 2019 for Storage	Windows Storage Server 2016	Windows Storage Server 2012, 2012 R2	<p>・ハードディスクに独自のOS(Linux等)が搭載されており、Windows 標準のファイルシステムと完全互換ではないため、ソフトの動作において問題が出る可能性があります。</p> <p>・数千～数万枚の写真データなど、大量ファイルの読み書きを行うと、NAS の動作速度が極端に低下し、ソフトの動作停止やデータ破損が生じるケースが確認されております。</p> <p>・ユーザー様からの問い合わせにて、データ破損や、写真等のファイル日付が変わってしまうトラブル事例が多数報告されています。</p>	<p>【LANケーブル】</p> <p>・左記の「LAN接続のみ」のタイプと同様です。</p> <p>【USBケーブル】</p> <p>・ローカルドライブ (D:等) としての使用となります。</p> <p>※1</p> <p>・ドライブのプロパティにて、フォーマットが「NTFS」である事をご確認ください。</p> <p>・USB接続で保存したデータを、LAN接続に切り替えて読み書きする動作は保証いたしかねます。</p>	
搭載 OS							
Windows Server IoT 2019 for Storage							
Windows Storage Server 2016							
Windows Storage Server 2012, 2012 R2							

【その他メディア・ネットワークの接続方法別】

USB メモリや、ネットワークに接続されたサーバーやPCの接続方法による、データフォルダーや一時管理フォルダーとしての使用可否は以下の通りです。

USB メモリ SD メモリカード等	Windows Server, PC (有線 LAN 接続)	Windows Server, PC (無線 LAN 接続)	Windows Server, PC (WAN, VPN 接続)
△	○	△	×
 <p>USBメモリ SDメモリカード データフォルダー デキスパート</p>	 <p>有線 LAN データフォルダー デキスパート</p>	 <p>無線 LAN データフォルダー デキスパート</p>	 <p>本社サーバー データフォルダー WAN・VPN デキスパート 現場のPC</p>
<p>■データの保存先</p> <p>USB メモリ SD カード等の記録メディア</p>	<p>有線 LAN で接続された PC や サーバー機</p>	<p>無線 LAN で接続された PC や サーバー機</p>	<p>WANやVPNで接続された PC や サーバー機</p>
<p>■注意事項等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・紛失や破損の危険性が高く、デキスパートのデータをはじめ、企業の大切なデータを保管する場所として相応しくありません。 ・USBメモリやメモリカードは、ハードウェア的に非常に弱く、物がぶつかったり、抜き差しの際の力加減などで破損してしまい、一瞬にして大量の重要データを失うことになりかねません。 	<ul style="list-style-type: none"> ・LAN 環境が正しく整っていることが前提です。 ・専門の業者の方や、ネットワーク構築の知識がある方にて、ネットワーク機器や、パソコン、サーバーの環境設定および、接続を行ってください。 ・ウイルスチェックソフトの種類や設定等により、データが正しく読み書きできない場合がありますので、ご注意下さい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・無線電波の通信状態が悪く、通信途中で切断されたりする危険性があります。 ・その場合には、大切なデータを失ったり、破損したりする可能性があります。 	<ul style="list-style-type: none"> ・非常に多くの通信経路を経由することになり、デキスパートとしてのデータ処理の安全性・安定性を保証することができません。 ・ファイルやデータの検索、大量枚数の写真ファイルやサムネイル画像の読み書き等を行う際に、パフォーマンスを確保することができません。
<p>■備考</p> <p>・パソコンやサーバーに正式なデータが保存されている上で、一時的な持ち運びに利用することは可能です。</p>	<p>・デキスパートのデータフォルダーとして使用できる OS につきましては、動作環境をご確認ください。</p>		